清流

題字：芳野充

令和7年1月30日
第97号

発行所　加来不動産㈱
発行者　加来　寛
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

丁寧に、し続ける

「人事を尽くす」。これは令和七年のわたしの抱負です。

去年の抱負は「自ら処すること超然」とし、自分をつき放し客観的に見つめる、という一年としました。その結果、「できている」「やれている」と思っていたことが、そうではなかったことに気づかされました。また同時に、客観的に自分を見つめることは相当難しいものだ、とあらためて実感しました。

そんな折、素心学（池田繁美主宰）を学ぶために毎月、岩手県から足を運んでくれる同志からこんな話を聴きました。

「丁寧に、し続けることが大切だと思った。それは決めたことを継続することは大切で、そのことで克己心が培われる。しかし思いやりを身につけるためには、やっていることが丁寧かどうかが重要だと気づいた。ただ決めたことをやっているだけで心がこもっていないと、ともすれば逆効果になることもある。だからわたしはやると決めたことを丁寧にし続ける」。

この話を聴いたとき、わたしは自分のことを言い当てられたような気がして、何とも居心地のわるい気持ちになりました。

去年は毎日、自分の言動をふり返り「〇」「×」をつけて反省する、ということは行えたものの、「×」のついた項目を丁寧にふり返り改善行動を考え、次の日に活かせていただろうか。現状を真摯にうけとめ、それを打破するための知識や情報を本当に学ぼうとしていただろうか。そうふり返り、自分の身のまわりに起きているできごとをしずかに見つめてみると、結果が伴っていないことに気づかされました。

人事を尽くすとは、人としてできる限りのことを実行する、やれることを全てやる、ということです。このように文字にすると、なりふり構わずガムシャラに行動する、というニュアンスにもとれますが、わたしのなかではそうではありません。やらないといけないのに、やっていないことに着手し継続させること。いますでにやっていることで継続することは、丁寧にし続けること。これがわたしの「人事を尽くす」です。

「人事を尽くす」のあとは「天命を待つ」で、正式には「人事を尽くして、天命を待つ」と言われますが、やれることをなりふり構わず行うのではなく、自分が決めたこと、あるいは必要だと感じたことを丁寧にし続ける。そうすることで天も味方してくれるのでは、と思う年男のわたしです。

肩の力をぬき、ほどよい緊張感をもって一日一日を大切に過ごし、そして丁寧にし続けて参ります。

加来　寛